



2001年 6月15日発行（隔月刊）



う 羽 化 か

2001年6月
第26号

横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会
 〒231-0851 横浜市中区山元町2-105 Tel 045-641-1290
 発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣
 編集責任者 宇 田 川 幸 子



目 次

漢点字変換ソフト「EIBRK」について(10) (木下 和久)	i
川上泰一先生に出会って(第8回) (東野 トシエ)	1
連載「点字から識字までの距離」(23) (山内 薫)	4
ご報告とご案内	7
漢文のページ	9
点字の読みづらさと漢点字の触読について (岡田 健嗣)	11
漢点字訳書のご紹介	15
イラスト版「漢点字ってどんな字？」(25)	21

川上泰一先生に出会って

(第八回)

東大阪市 東野 トシエ

昭和60年代・平成

福祉器機展で、川上先生御夫妻に数回お会いしました。

昭和60年に、ワープロセミナーが大阪市の『盲人情報文化センター』で開催されました。

そのとき、川上先生は漢点字について御講演なさいました。

村尾氏にPC6601シリーズを使用して作成していただいた『音声カナタイプライター』を展示会に出展し、川上先生にも見ていただきました。このソフトの開発のモニターは私です。漢点字にも対応していただけるように話して作成していただいています。私は初めてパソコンを手にしたとき、(川上先生がおっしゃっておられたとき、コンピュータってこれなのだ)と思いました。

同じパソコンを使用して漢点字が入力できるチノワード66というものに出会いました。このパソコンでは辞書を引くことはできませんでしたが、仮名漢字変換もできませんでしたので、漢点字を入力するのに川上先生が作成して下さった『漢訳国語辞典』や『漢和字典』のお世話になりました。数行書くのに本が何冊も並び机の上は本で一杯になりました。

ムラオ電子製チノワード66用キーボードの外形は私が提案しました。特にキーの位置ですが、カナタイプライターはほぼ縦に並んでいます。少し角度を緩やかにしました。ですから長時間使用していても疲労は少ないです。その後開発されたぼつぼつ君も同じケースを使っています。中身は全く違います。ぼつぼつ君には超小型コンピュータが内蔵されています。

また、別の展示会で、BRPCをみせていただき、私が『東野』と書いて他の所にいたのですが、リツエ奥様が見つけて下さり、「名前が書いてあるから会場にいるはずだと思って捜したぞ」とおっしゃり、久し振りに川上先生御夫妻にお会いすることができ、お話しもできてとても嬉しかったです。



その後、展示会などに行く。「東野トシエ」と名前を書くようにしています。そうすると、会場は大阪だったのですが広島のお友達から、「昨日の展示会に行つてたんだね、私は行っていないけれど行った人が名前があつたつて言つていたよ。」というメールをいただくことができました。

『声の漢点字情報』というテープ雑誌が発行されました。そのなかで川上先生が、『新星通信』の巻頭言（川上先生がお書きになられたもの）を朗読して下さつておられました。ほんとうに久し振りで川上先生のお声を聞くことができ懐かしかったです。だけど、川上先生には朗読ではなく、漢点字の講義をしていただいはと思ひました。そこで、テープ雑誌の編集長の米原清司先生に、「川上先生には、漢点字のなりたち、例えば、漢字をこのように分解して、この部首を捨ててこの部首を残して、一連性を保持したなどの講義を連載していただいは。」とお願ひしたことがあります。今でも私はそのような講義を連載していただきたく願ひしております。

ちなみに『声の漢点字情報』通称『声漢』と呼んでいますが、漢点字の普及発展に貢献しているテープ雑誌だと思います。毎号、神戸市の畠田武彦先生の漢点字についての講義が連載されていますし、大分盲の森迫博幸先生のカラオケコーナーもあります。また、以前に『NHKおもしろ漢字ミニ字典』柴田道広・長崎武昭・山岸嵩著を連載して下さいました。この本を漢点字交じり文で読むことができ、ほんとうによかったです。漢点字が一連性文字で保持されていることがよく分かりました。

『新星通信』の巻頭言で『読み書きそろばん』と題して、数回書かれていたこと御記憶の方も大勢いらつしやることと思います。「漢点字を読んで書いて覚えて、それからコンピューターです。読み書きそろばんのそろばんに当るのがコンピューターです。」とよく川上先生は書いていらつしやいました。

私はけっこうそろばんは好きで、Aクラスのメダルをいただきましたし、珠算競技会にも学校代表で数回出場させていただきました。

そろばんに当るのがコンピューター、確か

に、世間では以前のように、そろばんを習いに通っている人は少なくなりましたし、計算はそろばんよりコンピュータの方が早くて正確ですが、私たちは、文字を入力するためにパソコンを使用するのだから・・・。

なるほど、パソコンを始めるとパソコンに時間をとられて、漢点字の学習がおろそかになっ
てしまうようなのです。だから、川上先生は盛んに「漢点字の読み書きができるようになってから、コンピュータを。」とおっしゃっておられたのだと思うようになりました。

私はパソコンと出会ったのは昭和59年で、漢点字を習い始めて十数年過ぎてからでした。

だからパソコンを先に使われて漢点字を習い始められた方とはちよつと考え方が違う点があるかもしれません。

パソコンで文字が書けるから、もう漢点字をわざわざ習わなくてもおっしゃる方がいらつしやいます。私はそうは思いません。漢点字とパソコンは別々のものだと思います。たとえパソコンを使用しないと、漢字の知識は必要ですし、漢点字は学習された方がいいと思いません。

パソコンがない大昔から漢字はありましたが、パソコンに入力するようになっても晴眼者はちゃんと漢字を学習しておられます。何といつても創めに言葉ありで、何をするにも文字が必要で、川上先生は漢字の知識を得るには漢点字で読書することだと、おっしゃっておられました。

漢字の知識がなくても漢字が書けるとおっしゃる方がいらつしやいますが、そんなことは不可能です。それは中途失明の方で、漢字の知識は既におありなのです。仮名漢字変換で入力するにしても漢字の知識は必要です。漢点字もそれと同じです。パソコンを使うとき漢字の知識があれば便利です。

また、漢点字は従来の点字よりも読むのに時間が掛かるとおっしゃる方がいらつしやいます。それはそうかもしれませんが、仮名漢字変換で一字一字音声で確認する方が時間が掛かりますし、後日、音声で聞いて確認するのも大変です。

漢点字で読書して漢点字を覚えて、パソコンには漢点字直接入力するのがベストです。漢点字直接入力できるように、ハード・ソフトとも

に環境を整えて、購入する必要があります。

誤字を書いてしまうのなら、仮名だけで書いた方がいいとおっしゃる方もいらっしゃると思います。

そういうこともいえるかもしれませんが、邦文タイプライターやコンピュータなどは盲人は使えなくて、仮名タイプライターを使用していた時代は、仮名だけで文章を書いていてもしかたなかったですが、今日のように、パソコンが身近になり漢字交じり文を書ける盲人も出て来るとそうはいかないのではないのでしょうか？私は、パソコンを利用するようになり、ほんとうに漢点字を学習してよかったですと心から思います。川上先生が漢点字を創案して下さっていたから、このようにパソコンを利用して、漢点字で入力したり漢点字で出力させたりできるのだと思います。

この雑文もパソコンを利用して、漢点字直接入力し、ピンディスプレイに漢点字を表示させて確認し、辞書を引いたりもして書いています。パソコンを利用できなかったらこんな長文は私には書けなかったと思います。

ひどい難聴の方が来院されると、パソコンをたあげて会話することもあります。(つづく)



点字から識字までの距離(二二)

山内 薫 (墨田区立緑図書館)

緑図書館はJR総武線両国と錦糸町の間の高架線路沿いにある。丁度一年前の六月一五日未明、緑図書館のすぐ横の高架下に住んでいた「おじさん」が、三人の若者に襲われて亡くなった。その場所に二〇年以上も住んでいた「おじさん」とは、よく話しもしたし、毎日図書館にやってきて、新聞などを読んでいた姿が今でも目に浮かぶ。事件から二ヶ月後に一八歳から二〇歳までの三人の少年が捕まった。供述によると「ストレスがたまっていたので、格闘技の練習台にしたかった。」という。事件の直後、またしても「二七歳」という言葉が飛び交った。

酒鬼薔薇聖斗、佐賀県のバスハイジャック事件、電車や駅でのトラブルによる撲殺等々、中学生から二十歳前後の少年による殺人事件は後を絶たない。

この連載の一八回(『うか』二一号)で、識字に関連して、『本が死ぬところ暴力が生まれ

る「電子メディア時代における人間性の崩壊」
（バリー・サンダース著、杉本卓訳、新曜社、
一九九八）という本を紹介したが、アメリカで
もこの年代の少年の銃乱射事件などが多発して
おり、社会問題となっている。

「今日、アメリカの読み書きのレベルは急速
に低下している。（中略）若者の九〇％は簡単
な文章であれば読むことができる。しかし、そ
の大多数は小学生レベル以上のテキストの理解
が困難である」という。教師たちが異口同音に
語る徴候は、聞く力の低下、事実や考えをま
まりを持って順序立てて捉える能力の低下、言
葉の代わりに身振りを使って伝える傾向、埋め
合わせの言葉を使って文を冗長にする傾向
（「あのー、えーと・・・みたいに」）、話し
言葉から書き言葉への切り替えの難しさ等であ
る。言葉の音を聞き分け、音の流れも捉える能
力である「音韻感応力」は左脳が関わる能力で
あり、初期の経験が脳のこの領域の発達があり
方に大きな影響を及ぼす。この音韻感応力を育
むには幼い時期の親からの語りかけが欠かせな
い条件であり、テレビなどの間接的な言語情報
は言語獲得にとって貧弱な条件にしかない

という。

テレビやテレビゲームなどの映像は当然右脳
を刺激するために、最近の子どもたちが「右脳
化」しているという指摘もある。「本来左半球
で処理すべき学習課題を右脳に関連する能力で
扱えようとする傾向があり。」、「読み、綴
り、正確な計算、論理的な書字表現、分析的な
判断という伝統的な学校の学習課題は左半球に
ほとんど依存している。」、「しかしそれは右
半球の援助なしには達成できない。」「重要な
問題は子どもが右脳化しているか否かではな
く、環境が両半球を相補的に使わせる体制を持
っているかである。」という。

例えば、先天的に耳の聞こえないろうの子ど
もの場合には聴覚的刺激が入ってこないために
視覚系が過剰に発達し、通常聴覚的刺激を処理
する脳の領域まで広がるが、これは人の脳の大き
きな可塑性の証明であり、生後四年間といつた
限られた時期だけに生じると研究者が発言して
いる。

このことから「初期の言語体験や感覚体験が
脳の発達を劇的に変えることができ、それぞれ
の入力が発達のある時期にのみこの変化を作り

出す力を持っているということを確認に出来る時代がやってくる。」とまでいつている。

日本でも「三つ子の魂百まで」というけれども、最近の脳研究の知見はこの警句をますます現実味のあるものにしつつあるようだ。

先のサンダースも「口承世界の十分な経験をしないならば、生き生きとした活力のある識字の世界へと進んでいくことはできない。」「口承世界でのことばを使つてのコミュニケーションがあつて、はじめて、ことばの発達が準備される。」この過程は、単に言葉かけが不足しているという貧しさのレベルの問題だけではなく、電子的な言葉の洪水による過剰であることも問題なのであると述べている。

社会学者の宮台真司も最近の著作（『自由な新世紀・不自由なあなた』メディアアファクトリー 二〇〇〇年）の中で、様々な少年事件に言及しながら、「キレる」ということについて、社会的コミュニケーションからの広範な離脱が生じている点を指摘している。

宮台は、乳幼児に携わる専門家の間で話題になっているサイレントベイビーについて、赤ん坊が泣いても、母親などの周囲の大人が適切な

反応を示さないことが原因で、赤ん坊には当初「怒り」の感情が生じ、やがて「諦め」に移行し、「コミュニケーションを通じた達成」があげられないことを刷り込まれてしまうという米国の研究を紹介している。

その背景には、親たちが幼児期に『スポック博士の育児書』に始まる自立育児で育てられ、言葉かけやあやしが不十分だった可能性、親がベビーカーを多用してスキップが欠如しがちである可能性があるという。そして「行為障害のもつとも重度のものに、乳幼児期にスキンシップや言葉かけが極端に不足して生じる『愛着性行為障害』があります。多くは、脳の磁気スキャンをすると倫理的判断をつかさどる前頭葉と、情緒機能をつかさどる左側頭部に脳の発達異常が見られることが知られます。」と述べている。

こうした識字の問題、文字が読めても理解が困難であるという機能的非識字の問題は、脳の発達過程と密接に関連しており、しかも乳幼児期のそれが大きな影響を一生にわたって及ぼすことが多くの研究によって明らかにされようと



している。

サンダースが指摘するように「罪悪感、良心、そして自己などは活字によって形成されるもの」であり「識字が促進してくれる批判的・反省的思考を持たないため、何事も濾過することができない」とすれば、これからもこうした少年犯罪は増えこそすれなくなることはないだろう。

図書館は本を読む人を単に待ち歓迎するだけではなく、本を読む人を育てることに真剣に取り組まなくてはならないだろう。

特に四歳頃までの幼い子どもたちにいかに働きかけていくかということが焦眉の急であるように思う。

今回は『滅びゆく思考力―子どもたちの脳が変わる』（ジェーン・ハーリー著 西村辨作、新美明夫訳 大修館書店 一九九二）をベースにして書きました。是非一読をお勧めします。



◆「報告と」案内◆

1. 漢文の表記について

① 本誌24、25号と、漢点字によって漢文の訓読文が如何に表記できるかを考えました。その実際の試みとして、本号より漢文のページを設けました。ご意見ご感想などお寄せ下さい。

② 漢文の表記法の目処は立ちましたが、漢文をどう読むか、漢文の読解力を高めたいというお声が届いております。そこで、漢文の極初歩的な通信の講座を計画しております。漢点字の資料と、テープによる解説で行います。ご希望の方はお申し出下さい。

2. 草野仁著、『生きてるからこそ』（小学館）の漢点字訳が完成しました。全3巻。四五〇〇円です。

3. 『聊齋志異 下巻』（平凡社）が完成し、横浜市中央図書館に納入しました。全一八巻です。ご利用下さい。

*前、二タイトルの後書きを本号に転載致しましたので、ご一読下さい。

4. 広島・岩国・宮島の観光ガイドが漢点字訳されました。六〇枚、ご希望の方はお申し出下さい。

5. 前号で記しましたように、この秋を目標に、漢点字の電子データの資料の配布の試験を行います。そこでモニターを募集しております。お願いできる方は、お申し出下さい。

6. E I B R K W (ウインドウズ用) が、J T R 製の点字プリンタ、E S A 七二一に対応しました。両面印刷、ページ行を含めて片面一四行です。

価格は一万円です。

プリンタではエヴェレスト、B A S I C、D、バーサポイント、ピンスプレイではブレイルノート四〇A、四六C、D、ブレイルメモB M 一六に、対応した機種が一つ加わりました。

7. E I B R D I C (漢字熟語読み方電子辞典) に J I S コードのデータが追加されました。現在二〇万四千五百レコード登録。価格は六〇〇〇円です。

今後は漢字の意味の説明を充実する予定です。

また、E I B R D I C W (ウインドウズ用) の開発も進んでおります。

ご期待下さい。

8. 漢点字学習者を引き続き募集しております。ご希望の方がございましたら、ご紹介下さい。

以上、お申し込み等はお手紙、お電話、あるいは E・M A I L にてお申し出下さい。

takeshi-okada@h2.dion.ne.jp

漢文のページ

偶成

朱熹

少年易^ク老^イ学難^シ成^リ

一寸^ノ光陰不可^{カラ}輕^ズ

未^ダ覺^メ池塘春草^ノ夢

階前^ノ梧葉已^ニ秋聲

（少年老い易く 学成り難し／一寸の光陰 軽
んずべからず／未だ覚めず 池塘春草の夢／階
前の梧葉 已に秋声）

若者は年をとり易く、学問は成就しがたい。だから、少しも時間を無駄にしてはいけなない。池のつつみの春の若草の夢がまだ覚めないうちに、階段の前の桐の葉にはもう秋風が吹いている。

（朱熹は南宋の詩人。）（『漢詩日記』石川忠久
（大修館書店）より）

樂遊原

李商隱

向^{ヒテ}晚^ニ意不^レ適^ハ

驅^{ツテ}車^ヲ登^ニ古原^ニ

夕陽無^ク限^リ好^シ

只^ダ是^レ近^ニ黄昏^ニ

（晚に向いて意 適わず／車を驅つて古原に登る
夕陽限り無く好し／只だ是れ黄昏に近し）

日暮れ近く、なんとなく気持ちがくさくさするの
で、車を驅つて樂遊原に登ってみた。すると、夕陽
のすばらしいこと、たとえようもない。だが、それ
も一瞬のこと、すぐにたそがれが迫ってきた。

（李商隱は晩唐の詩人。）（『漢詩の心』より、
守屋洋（プレジデント社））

偶成

朱熹

少年易ク 老イ学難シ 成リ

少年易ク 老イ学難シ 成リ

一寸ノ光陰不 可カラ 輕ンズ

一寸ノ光陰不 可カラ 輕ンズ

未ダ 覚メ池塘春草ノ夢

未ダ 覚メ池塘春草ノ夢

階前ノ梧葉已ニ秋声

階前ノ梧葉已ニ秋声



樂遊原

李商隱

向ヒテ 晚ニ意不 適ハ

向ヒテ 晚ニ意不 適ハ

驅ツテ 車ヲ 登ル古 原ニ

驅ツテ 車ヲ 登ル古 原ニ

夕陽無ク 限り好シ

夕陽無ク 限り好シ

只ダ是レ 近シ黄 昏ニ

只ダ是レ 近シ黄 昏ニ

点字の読みづらさ

漢点字の触読について

横浜漢点字羽化の会 代表 岡田 健嗣

☆ ☆ ☆

へん本稿ではこれまで九回に渡って、点字の触読のメカニズムについて考えてきました。

触覚を通して文字を読むことが、視覚障害者にとってどのように位置付けられているのか、今少し明るみに出せないものかと考えたからです。

視覚障害者にとっての文字がへん点字であることは異論のないところと言われて参りました。しかしながら実際には、へん点字への触読で読書することが次第に減って来ているのも否めない事実です。そこで、私たちにとつての一般的な読書とその現状、また点字の触読の一般とその現状、そして日本語点字の特殊性とその現状を分析して、日本の視覚障害者にとつての読書の在り方がどのようなものかを探って行きたいと考えて筆を執つたのでした。

また、本会の活動と本誌の発行によつて、でき得れば視覚障害者個々それぞれの多様なニーズの拡大に結び付いて、社会に提示され、真の社会参加が実現されることを強く願つております。またその一方、そのようなニーズに

応じられる社会の実現も求められます。そのような社会は、視覚障害者にとつてのバリアが解消した社会と言えましょうが、それを想像しますと、読書を含めた社会生活が、視覚を失つていないことによつても阻害されないものであつて、しかも視覚障害者も、その故を以て社会人としての責任を免れない社会となるものと考えられます。そのような社会が視覚障害者にとつて、これまで以上に生き易いものであるか分かりません。しかし一つだけ言えることは、自身の責任の發揮によつてのみ権利を行使できる社会であつて、それだけは現在の社会とは大きく異なつていないと違ひありません。

本誌前々・前(二四・二五)号では、本稿を中断して、『漢点字による漢文訓読文表記の試み』と題して報告しました。これは故川上泰一先生が、一般に行われている文字表現を、へん点字の世界に実現したいというお考えから漢点字の考案に漕ぎ着けられたことを受けて、記紀・万葉から現代に至るまでの、我が国で編まれたあらゆる文書を、へん点字で表現し、触読し得るものを目指したものです。このことで、視覚障害者にとつて開かずの門であつた国語の世界に、薄い光でも差し入れることができ、日本の点字の新たな体系の成立が求められるようになることを願つております。

川上先生も、この漢点字で、漢文の訓読文の表記を試

みておられました。残念ながら私たちはその全容に触れることができずに現在に至りました。そのようにして拙稿を提出した次第です。諸兄姉のご批判を仰ぎたくお願ひ申し上げます。

☆ ☆ ☆

〈二〉前稿(「読みづらさ」9)から既に六カ月を過ぎしてしまいました。そこで、簡単に前項を振り返ってみます。

日本語の点字の成立と切り離せないものに、日本の近代化とかな文字運動があります。

明治二三(一八九〇)年に、「日本語点字」が制定されることになって、石川倉次先生が考案されたものが採用されました。これが現在の「日本語点字」のルーツです。

この日本語の点字は、レイ・ブライユが1829年に発表した、六点式の点字を基本形として、ブライユの点字表の一行目にある六つの点の内の、上四つの点で構成されている十個の点字符号の、またその中の左上の三つの点(⠠)で構成されている五つの符号を、五十音のA行の五つの母音に充てたものでした。そしてカ行以下は、子音として右下の三つの点(⠠)を付加して表して、五十音の清音を六つの点(⠠)に収めることに成功したのでした。詳細は「石川倉次の日本語点字表」をご覧ください。

このように、日本語点字の成り立ちは、レイ・ブライユの

六点式の点字体系と、日本語を西欧の文字である、アルファベットで表記しようとしたローマ字体系に依存したものであることが分かります。そのために、点字の使用者や指導者が、「日本語の表現は、音節表現で割り切れる」という考え方を採るようになって、現在も、漢点字使用に否定的な点字の使用者や点字図書館、あるいは盲学校など点字を指導する機関では、「点字の表記は、音節による分節表記が最も優れていて、しかも日本語を表現するのに十分である」と公言されておられます。

☆ ☆ ☆

〈三〉日本語点字にとって、最も大きな拠り所であったのは(かな文字運動)でした。

日本の点字も、明治政府の近代化政策の余波の一つとして成立したものと行って過言ではありません。と申しますのは、明治政府は、我が国を欧米に並ぶ近代国家として、国際社会に認められるために、欧米の制度をそのまま導入して、欧米と同様の国家運営を行っている姿を示して、また、欧米に倣うことで富国をはかり、一流国家に仲間入りすることを目指していました。

そのような政策の一つが、教育制度の整備でした。そのようにして視覚障害者に対する教育の制度も、辛うじてその端に加えられたのでした。我が国の視覚障害者への教育はこの時に始まったのですが、まず必要だったのが『文字』でし

た。

触読用の文字として欧米で急速に普及していたのが、ルイ・ブライユの（点字）でした。それを基に幾通りかの日本語の点字が考案されたのですが、現在の筑波大学附属盲学校の前身で、ある東京盲学校で教鞭を執っておられた石川倉次先生の体系が日本語の点字として採用されたのでした。

石川先生は、視覚障害者（当時は盲人と呼ばれていました）には『漢字』は難しく、教えるのは無理と判断されて、点字の体系には『漢字』を一切取り入れられませんでした。そのお考えの基底には（かな文字運動）の考え方が強く働いていました。

五 点字の成立とその周辺（承前）

カナ文字運動

（大正三年（一九一四）六月、住友銀行の幹部だった山下芳太郎は（略）国字改良論を発表した。日本語の表記を左横書きのカタカナに統一し、漢字を廃すべしというもので、活字の試案も掲げられていた。）（紀田順一郎著、「日本語大博物館」、ジャストシステム）

明治政府にとつての急務は、国家の近代化でした。とりわけ国民の教育に力が注がれました。民意の向上なしに

は富国強兵はないことに、早くから気付いていたからです。維新直後の日本の非識字率は四割に達していて、義務教育制度の施行後も、初級学校四年間の就学率は、向上しませんでした。当時、大多数の国民は農民で、厳しい貧困に喘いでいたからです。皮肉にも、富国を目指しながらも、貧困によつてその貧困の克服が困難に直面していたのです。

そのような中、国語を「カナ文字」で表記しよう、漢字は使わないことにしよう、という主張が聞かれるようになります。これが（カナ文字運動）です。

当初の主な担い手は、郵政の父、前島密、最初の国語辞典『大言海』の編纂者の大槻文彦博士でした。

前島は、全国に郵便のネット・ワークを建設して、何時でも何処へでも、定額の料金で郵便物を届けるという、普通郵便制度を国家事業として確立しました。がその際、何時でも何処へでも、に加えて「誰でも」もあったのです。当然のことながら郵便物には、手紙とそれを宛てた宛名が必要です。それらを書くには、文字を知らなければなりません。誰でもが郵便を利用して手紙を遣り取りするには、文字の普及が不可欠です。そして文字を習得するには、学習が必要です。当時の国民にはその学習が困難だったのです。

前島は、国語の表記に漢字を使わないことで、国民の

学習をより易しいものにしようと考えました。

一方大槻博士は、辞典の編纂という大事業に取り組んでおられました。しかし、その国語辞典を使うはずの国民の民意の低さに、とても使いこなせるとは思われなくなりました。博士も、カナ文字の採用が、国語の習得に易しいものであると考えられました。

このようにして、初期のカナ文字運動は始まったのです。ここに掲げた山下芳太郎は、大正から昭和にかけて活躍した企業家です。山下は明治のカナ文字運動を受けて、そこに企業家としての思想を投入しました。

山下にとって「文字」とは、まず通商上のコミュニケーションの手段でした。欧米の企業家が、通商の交渉を行う際、極めて迅速に覚え書きを作り、契約書を作製し、また自在にその内容を変更しているのを見張りました。これまでの日本の商取引の慣行では、とても欧米の商人を相手にすることはできないと、痛感させられたのです。

そこで山下は、まず書類の作成にかかる時間を短縮することを考えました。「簡便に日本語を書くには、やはりカナに限る」として、カナタイプライターを製作して普及を図ったのです。

(続く)



表 六

石川倉次の日本語点字の構造

あ	い	う	え	お	か	き	く	け	こ		
⠁	⠇	⠊	⠑	⠔	⠊	⠊	⠊	⠊	⠊	(K	⠊)
さ	し	す	せ	そ	た	ち	つ	て	と		
⠎	⠎	⠎	⠎	⠎	⠊	⠊	⠊	⠊	⠊	(S	⠊)
な	に	ぬ	ね	の	は	ひ	ふ	へ	ほ		
⠎	⠎	⠎	⠎	⠎	⠊	⠊	⠊	⠊	⠊	(N	⠊)
ま	み	む	め	も	ら	り	る	れ	ろ		
⠍	⠍	⠍	⠍	⠍	⠊	⠊	⠊	⠊	⠊	(M	⠊)
										(R	⠊)

漢点字訳書のご紹介

『聊齋志異 下巻』（蒲松齡著、平凡社、一九七一年）と、『生きてるからこそ』（草野仁著、小学館、一九九九年）の漢点字訳が完成しました。両書の後書きをご紹介します。

『聊齋志異』常石 茂、訳者

あとがき

魯迅はその『中国小説史略』で『聊齋志異』の特色をとらえ、「描写は詳しく、語り口は井然としており、伝奇小説の方法に拠つて怪を志し、変幻の状たるや目前に在るがごとくである。かとおもうとまた、がらつと調子を変えて、怪とは別に、奇人の異行を叙し、幻域から出てたちまち人間界にとび移る。まませ細な伝聞を述べているが、これまた多くは簡潔である。おかげで読者は耳目を一新されるのだ」といつている。一口にいえば、ここには近代小説につながるリアリズムがみられる、として高く評価しているのである。これがどれほどあたっているかは、本大系中の『六朝・唐・宋小説選』や『剪燈新話・同余話他』等の諸篇と読み比べられれば、おのずから明らかであろう。

では、『聊齋志異』は新中国でどのように受け止めら

れたか、その一例を北京大学中文系文学専門化一九五五級の集体編著『中国文学史』（人民文学出版社一九五九年刊）で見てみると、本書が「花妖・狐魅の故事を通じて、清初の社会の真実の面貌を生き生きと読者の面前にさらしてみせた」点を高く評価している。

そして、「狐・鬼・精霊と人間との恋愛故事」を通じて、「心からなる純潔な自由恋愛を謳歌し、反封建反礼教の闘争精神を賛美している」のを筆頭に、「貪官や土豪劣紳の暴露」を通じて、「封建政治制度をあばき出し、鞭うっている」ことや、「科挙試の弊害の一端を暴露したり、知識分子たちの精神状態を分析したりして、科挙制度の腐朽を批判している」こと、さらには、広汎な社会・人心の暗黒面をつきつけて、世俗を痛憤し、社会の滓を剔抉しようとしていること、また、善良な人間、迫害されている人間、才を懷いて不遇な人間、怨みをのんで死んだ鬼魂、恋愛が成就しなかった青年男女らに、深甚な関心を寄せているけれども、それは蒲松齡の強烈な人道主義的精神の発露であること、等を特に指摘している。が、同時に、排滿興漢の民族意識が微弱なことや、儒家思想に深くむしばまれていて、無味乾燥な封建的説教を弄したり、終生功名利禄の念を捨て切れず、科挙に合格して官途につくことによつて、一切の矛盾が解決するかのよう描いたりす

る、そういう落伍的な半面を擁していることも論じている。

それはそうとして、では、『聊齋志異』を綿々と書きつづけた蒲松齡の心にはどういう地下室があったのだろうか。

増田渉氏は「下第の秀才」にそれを求めている（中国古典文学全集版『聊齋志異』の「訳者のあとがき」。「何度うけても官吏試験にパスできなかった『下第の秀才』であつた彼は、身を不遇の境におくことによつて、その不遇を社会的なものとして把えることから出発して、ほかの社会的弱者の圧迫される現実を直視することができた。圧迫される者への同情を触発され、圧迫する側への憤りをもつことができた。孤憤（上巻所収「聊齋自誌」中の語。解説参照）といつても、彼のはそのようなところからさらにふみ出してはゆかないで、狐や幽鬼の世界と結びつかねばならなかつたところに、下第の秀才の生き方があつたということは哀しい」とある。

また、目加田誠氏も、「自らこの書を『孤憤』の書だといつているが、官権に対する反感、社会の矛盾への憤りといつても、（中略）実は自分がその官僚機構に入り込めぬ不平不満から来たものである。この世に出世の望みをほとんど失いつつ、なお科擧をあきらめず、しかもその不平不満が内に鬱屈して、そのはげ口を、こう

した幽冥の世界に向けていったかと思われる」（大阪市立大学中国文学研究室編『中国の八大小説―中国近世小説の世界』所収『聊齋志異』の文学「平凡社刊」と説いている。

それにしても、とかく苦痛でしかない翻訳の仕事のなかで、本書の訳出はなかなか楽しかつた。ここに登場するものたちのほとんどが、その究極において無心だからである。碁に無心の一石という評語があり、野球に無心の一投という評語がある、その無心である。

芭蕉が富士川のほとりで見かけ、「汝が性のつたなさをなけ」といいすてた、「三つ許なる捨子」の泣きかた（『野ざらし紀行』）である。

本書では、蕩児は蕩児なりに、悍妻は悍妻なりに、幽鬼は幽鬼なりに、妖異は妖異なりに、自身ではどうしようもなく、つたない性のままに運命の軌跡を描いてゆく。それはおそろしく、蒲松齡の心そのものであつたろう。そこに本書の美しさが生じ、訳出して楽しかつた安らぎがあつたのだ。

底本を輯校した張友鶴は、その「後記」で、493と494との二篇は青柯亭本にしかなく、作者手稿本にも鈔雲斎抄本にもないので、便宜上巻末に配したと、495から500までの六篇は『聊齋志異遺稿』にしかなく、501から503までの三篇は『黄炎熙抄本』に

しなくて、多分に後人の偽作のおそれがあるため、ひとまず付録としたこと、をことわっている。

底本では、「305 夢の狼(夢狼)」の異史氏の評語のうしろに、本文より一字下げの体裁で李匡九の話を付載しているが、本訳書では、「(499) 恐るべき属吏(夢狼 付則二)」の個処に併載した。

病体のわたしに協力してくれた古瀬敦君は、一九四七年東大中国文学科卒、現在、都立北高校に教鞭を執る同学の士で、先年『春秋左氏伝物語』(河出書房)を共著した仲であります。また、稲田孝氏は本大系の『儒林外史』の訳者で、読者各位にはすでにご承知のところ。用務多端の折にも拘らず、貴重な時間と労力を割かれたご芳志に深甚の謝意を表します。

なお、底本が入手するまで、底本および貴重な諸資料を借覽させていただいた武蔵大学教授神田秀夫氏のご高配に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

一九七一年二月

常石 茂 識

『生きてるからこそ』草野 仁、著者』

あとがきにかえて

NHK入局から数えて三十余年、アナウンサーとして、そしてキャスターとして、これまでたくさんのかたがたと接する機会がありました。本著では、そのなかで

もとりわけ印象深かった出会いを選びすぐてご紹介してきました。

ひとくちに出会いといっても、いろいろな形があり、番組で一緒にさせていただいたかたもいれば、偶然お会いする機会に恵まれたかたもいます。ぼくにとつてそれらすべてが貴重な縁で、運命の神様がいるなら感謝したい思いです。

そこで、この「あとがきにかえて」では、文字どおり、ぼくが最初に出会った人、すなわち両親について、まずふれてみたいと思えます。

父(草野萬三郎)は、今年九十三歳。母(不二子)は八十九歳。ふたりともかくしやくとして元気です。

父は、長崎県・島原で古くから続く庄屋の家に生まれました。しかし、祖父の代に経済的に苦しくなり、父の幼少時代は赤貧洗うがごとの状態でした。向学心に燃える父は小学校時代から近所のお金持ちの家の庭掃除をしたりしてお金を貯め、奨学金の助けも借りて独力で中学、高校、大学と進み、卒業後は数学者として教鞭を執る道を選びます。

母も島原の出身で、音楽の教師。師範学校を出、小学校の教師四年めで父と結婚し、家庭にはいりません。

そして長男、次男、姉、末っ子のぼくが生まれま

す。父と母は当時としては珍しい恋愛結婚でしたが、数学者で真面目一徹、テレビ屋で九州男児そのものの父が、かけつゝが得意で明るく細身の母をどうやって口説いたのか不思議です。これだけは、母も笑うばかりでぼくに教えてくれませんでした。

一家は父の仕事の関係(新京工業大学教授に赴任)で満州(現・中国東北部)へ。そして終戦。父がロシア軍によってシベリアに抑留されたまま、われわれは一九四六年九月、島原に引き揚げます。当時のぼくは二歳でした。父が帰国したのは一九四九年の六月。まもなく父は長崎大学教授として働き、母も七年間、中学の音楽教師を務めることになりましたが、いまでもぼくの耳にこびりついているのは父の「勉強しろ!」という言葉です。何百回、何千回といわれ続けました。

とにかく小中学生時代のぼくは遊ぶことが大好きでした。学校が終わると、周りが真つ暗になるまで遊んで帰ります。スポーツも大好きでした。特に短距離では県でもナンバー1の記録を持っていました。でも父は「スポーツはやる」の一点張り。高校では、ひそかに陸上部にはいったぼくですが、バテてしまい、父が勝手に退部届を出してしまいました。本来なら大反発してグレてしまう状況です。ぼくが「コンチキショー!」と思い、悔し涙を流しながらも、そこまですらなかつたのは、母の励ましの言葉と父との会話があったからです。

「お父さんもあなたに期待しているの。あなたはやれば

できる人なのよ」「学校の成績なんて、いまのあなたの本当の評価じゃないわ。あなたは絶対、能力のある子供なんだから」

そんな母の励ましの言葉は、ぼくの自信につながりました。そして父との対話…。

「おれが、勉強しろ」「スポーツはやめろ」というのには理由がある」

父は砲丸投げの選手としてインターハイ全国大会で優勝しています。剣道も有段者で、まさに文武両道の学生生活を送っていたそうです。

「しかし、いまは反省している。人間、『二兎追うものは一兎も得ず』のたとえどおり、両立は無理だ。学者としていま考えると、おれは、学生時代、もつと勉強するべきだった」と痛切に後悔している。おまえに必要なのは勉強することだ。なぜならスポーツマンの人生はあまりにも短い、その後の人生のほうが、はるかに長いからだ…」

懇々と諭すように語りかける父。ぼく自身、100パーセント納得はしませんでした。

「この人は、ぼくのことをすごく思っていてくれる、考えていてくれる」という父の愛情を強く感じることでできました。

小学六年のとき、点数の悪い答案用紙を隠しているのが見つかり、「不正なことをする奴はだめだ」と、

父から坊ちゃん刈りの頭を丸坊主にされてしまったこともあります。涙が出ました。

でも、父を恨むよりは「ぼくが悪いんだ」という反省の気持ちのほうが強くありました。

「今日一日、学校であったことはすべて話せ」

父にいわれ、先生に注意されたことなど、包み隠さず話すと、「それはおまえが悪い」「うーん、そのケースは先生が悪い。おまえは間違っていない」

的確な評価とアドバイスをしてくれる父。その日課の対話があったからこそ、ぼくは不承不承ながらも父の方針にしたがっていたのだと思います。

大学時代も「部活とアルバイトはするな。勉強だけしろ」という父の要求どおりに過ごしました。

「うるせえなあ。なんでそこまで干渉するんだよ」と思うことは何回もありました。

でも、家の中でいつも机に向かい（学者ですから当然なのですが）、面倒くさがらずにきちんと息子に対応し、対話していく父の言葉には説得力がありました。

「生まれてきたときから、ずっと子供を見続けてきたのが親なんだ。子供の性格をいちばん知っているのは教師でも友達でもなく親だ。親には子供を見守り、躰ていく義務と権利がある」

といい続けた父。そしてNHKへの就職が決まったとき、子供時代、短気だったぼくに、

「職業人になつたら、男たるもの、単なる感情に任せ

て喧嘩をしてはいけません。人はみな利点、よさを持つています。人と会ったら、そこを徹底的に見る習慣を身につけなさい。 ”この人にはこんないいところがある”、それを見極めることができたなら、その人に対して腹を立てることはなくなりませう」

と、アドバイスしてくれた母。

いま、ぼくは両親の慧眼けいがんに深く納得し、感謝しています。父と母の存在と助言があったからこそ、いまのぼくが存在するといつても過言ではないでしょう。

「子供を本気で守ってくれるのは家族なんだぞ」

この父の言葉を深くかみしめているぼく。いつまでも元気で長生きしてほしいと思います。

さて、しめくくりにもうひとつ、出会いをご紹介します。

ぼくの事務所の書齋に、一枚の切り絵が飾られています。ちよつと太めのぼくの背広姿をモチーフにした、芸術センスあふれる作品です。この切り絵をぼくに贈ってくださったのは、山口県萩市在住の上田豊春さん（三十歳）。全国の三越百貨店で個展を開催するなど、新進気鋭の切り絵作家です。

彼との出会いは、テレビ。上田さんは幼いころから自閉症でした。お母さんは、将来をすごく心配していたそうです。ところが、養護学校の美術の時間、彼は切り絵で抜群の才能を發揮します。

「この才能を伸ばすべきです」
先生のすすめもあり、彼はお母さんとの二人三脚で、切り絵作家への道をすすみます。

その才能が見事に開花し、多くの番組にも出ていたのだいたわけです。毎日、書齋に飾られた上田さんの作品を見ながら、ぼくは出会いの不思議さ、大切さを痛感しています。人と人だけでなく、仕事・趣味など、人生にはいろいろな出会いがあります。上田さんの場合だと、お母さんとの出会い、切り絵との出会い、そして、作家への後押しをしてくれた人たちとの出会い……。

ぼくは、前著『娘へ』（小学館刊）でも『ポジティブ・ライフのすすめ』を主張してきました。どんな場合でも『ポジティブ』（積極的、前向き）に物事を考えていく。決して『ネガティブ』（消極的、後ろ向き）にはならない。

本著に登場するみなさんに共通するのは、人生を思いつきりポジティブに生きているということです。ハンデイを背負った人も数多く登場します。ともすれば、人生を投げやりにも考える人も多くなか、本著に紹介したみなさんは「生をより輝くものになりたい」と常に前向きです。現実を真摯（しんしん）に受け止め、みずからすすむ道を真剣に模索し、才能を開花させていきます。

最近では、一〇代で「どうせ、私の人生、こんなもの」と、悟りきってしまう若者が多いといわれています。

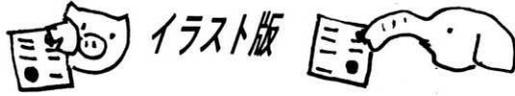
目標を持つても、それは目先のこと。

「志望校には入れたから、これでいいや」「就職できで、これでひと安心」

本当にそれでいいのでしょうか？ そこからまた、次の目標を持ち、前進していくべきではないのでしょうか？ うずもれたままの才能、可能性にチャレンジしてほしい。それを放棄するのは、すぐくもったくない気がします。ポジティブに物事を考えれば、いろいろな出会いは大きなチャンスになるのです。みなさんに出会いの大切さをわかってほしい、本著が少しでもその手助けになれば幸いです。

本著のイラストは、多くの次男の健が担当しています。彼も、会社員からイラストレーターに転身しました。ともすれば、会社を辞めることを挫折と考えがちですが、健はそれをイラストレーターへの方向転換とポジティブに考えているようです。そんな息子と、この本を読んでくださったみなさんに、そして本著に登場していただいたみなさんに紙面をお借りし、エールを送りたいと思います。

最後に、編集に携わっていただいた小学館女性セブ編集部の平川晃さん、根橋悟さん、編集企画『夢組』の島崎保久さん、姫野陽子さんにもお礼とエールを送ります。



漢点字ってどんな字？ 25

第二基本文字 その1

未 来 ちゃん 今日から新しい基本文字に入るのね。

おねえさん やつとここまで来たわね。

志 朗 君 第一基本文字だけでも沢山出てきたものね。

お そうね、一つの基本文字からいろいろなところへ派生するのね。

未 一マスの漢点字が57個だと思っていたら、それを部首にした字がどんどん増えちゃうんだもの、もう大変！

お では、いよいよ第二基本文字。未来ちゃん、お願いね。未 ます、第二基本文字の特徴を挙げてみるわね。

● ニマスでできている：

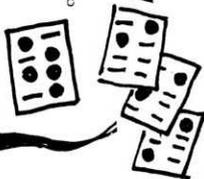
● ニマス目に①②③の点、何れかが付いている。

● 一つの文字である：

● 第一基本文字と同様、一つの文字として用いられる。

● 部首になる：

● 第一基本文字と同様、部首として形声文字を作る。



第二基本文字



1. 第一基本文字と関連した漢点字

第一基本文字 第二基本文字

..	〈宿〉	..	写		(<small>カ</small> 、かんむり)				
..	〈学〉	..	愛	..	光	..	文	(かんむり)	
サ	〈都〉	..	陸					(邑阜)	
ス	〈発〉	..	冬	..	罪	..	虎	(<small>夂</small> 久网虎、かしら)	
ソ	〈馬〉	..	牛	..	羊	..	豚	(牛羊豕豕、動物)	
← 今日はこちらまで									
チ	〈竹〉	..	雨					(竹雨、かんむり)	
ツ	〈土〉	..	土					(土土)	
ト	〈戸〉	..	居	..	老			(戸屍老、かんむり)	
ネ	〈示〉	..	衣					(示衣)	
ノ	〈私〉	..	米					(禾米)	
ハ	〈走〉	..	延	..	支	..	遊	(走支進、によう)	
ヘ	〈玉〉	..	王	..	主			(玉王主)	
ミ	〈耳〉	..	身	..	足			(耳身足)	
メ	〈目〉	..	自					(目自)	
モ	〈門〉	..	氣	..	包	..	区	(門气巾匚、かまえ)	
ヨ	〈店〉	..	原					(广厂、たれ)	
リ	〈分〉	..	今					(八人、かしら)	
..	〈日〉	..	白					(日白)	
..	〈困〉	..	我	..	式	..	用	(口戈、かまえ)	

2. 第一基本文字との関連の薄い漢点字

第一基本	第二基本文字		第一基本	第二基本文字
オ	〈頁〉 君		ホ	〈方〉 タ 死
カ	〈金〉 川		マ	〈石〉 立
コ	〈子〉 工		ム	〈車〉 虫 羽
シ	〈市〉 色		ヤ	〈病〉 山 矢
セ	〈食〉 鳥 魚 酉	ユ	〈行〉 弓	
タ	〈田〉 谷		〈心〉 桜 菊	
フ	〈女〉 舟		ン	〈止〉 欠
ヘ	〈玉〉 将			

お 未 志 お

表では、第一基本文字に関連しているものと、そうでないものに分けたのね。

第一基本文字と同じように、一文字がそのまま部首になるものと、文字の一部が部首になるものがあるね。

参考のために、表には第一基本文字も入れておいたわ。

点字符号の50音順にならべたのね。最初から一つづつ見ていきましよう。

②⑤の点



写



(シヤ、うつつ)

わかんむりは
宿のうかんむりと
同じ②⑤の点ね



未

写は「わかんむり」ね。
第一基本文字では宿、

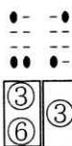
つまり「わかんむり」。
②⑤の点は、うかんむりと
わかんむりの両方に使われるのね。



「②⑤・ム」 軍 (グン)

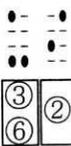
「②⑤・キ」 宋 (ソウ)

③⑥の点



文

(ブン、ふみ)



光

(コウ、ひかる)



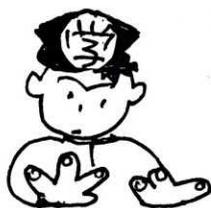
愛

(アイ)

つめかんむりに
似ているのは

学と同じ

③⑥の点だ



志

みんな第一基本文字の「学」の
爪冠に似た形のかんむりだ。
点の位置や数が少しづつ違っている
けど、同じ「③⑥の点」の点で
あらわすんだね。



「③⑥・ム」 輝 (キ、かがやく)



「②④・③⑥」 紋 (モン)

サ

陸

(リク、おか)



未

これは「こざと」ね。都と同じで
「サ」は、おおざと(邑)にも
「こざと(阜)にも使われるわ。



「サ・カ」 阿 (ア)



「ヤ・サ」 郎 (ロウ、おとこ)

ス

虎 (コ、とら) 罪 (ザイ、つみ) 冬 (トウ、ふゆ)

ス③ ス② ス①



志

今度は「ス」だね。
 第一基本文字の「ス」も一緒になると、はつがしら、ふゆがしら、あみがしら、とらがしらになるんだ。
 つまりみんな「かしら」だね。

「ス・レ」 各 (カク、おのおの)

「ス・メ」 置 (チ、おく)

「ス・ヌ」 虜 (リョ、とりこ)

ソ

豚 (トン、ぶた) 羊 (ヨウ、ひつじ) 牛 (ギユウ、うし)

ソ③ ソ② ソ①

オレたち
 みんな
 しょう



お

この「ソ」は動物なのね。
 第一基本文字は「ソ」で、草食動物が多いよね。豚(いのこへん)も「ソ」よ。

「ソ・タ」 駅 (エキ、うまや)

「ソ・シ」 特 (トク、おうし)

「ソ・ケ」 美 (ビ、うつくしい)

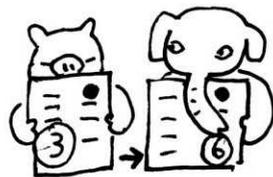
「ソ・ヒ」 豹 (ヒョウ)

お 今日はこの辺にしましょうか。

志 ちよつと待って、似ている字はないの？

未 えっ？ なにそれ？

志 ほら、形の似ている字、近似文字だよ！



志 2マス目が少し違っているね。

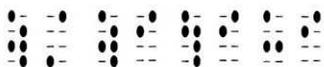
未 第二基本文字では内側(①②③)に付いていた点が、

近似文字では外側(④⑤⑥)に来るのよね。

志 セットで覚えるといいね。今日はここまで。

今日の近似文字

第二基本文字 ↓ 近似文字

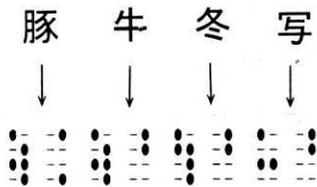


〔②⑤①〕 写

〔ス①〕 冬

〔ソ①〕 牛

〔ソ③〕 豚



〔②⑤④〕 与

〔ス④〕 久

〔ソ④〕 午

〔ソ⑥〕 象

(ヨ、あたえる) 久 (キユウ、ひさしい) 午 (ゴ、うま) 象 (シヨウ、ソウ、かたち)

牛と午写と与

こうん 似てるね



(作 岡田・絵 吉田)

栗の花紙 緩の如し 雨霽

杉田久女

月の夜を経し 山梔子は月色に

永井龍男

暎に暮れねばならぬ空のあり

稲畑汀子

(「歳時記」より)

編集後記

編集する際に、一番に届くのは表紙絵です。

「今回はどんな絵だろう？」(一番に絵を見られるのは、編集担当の特権です?)

「夏を知らせに飛びたちます」もう夏ですか!
この頃、少し動くと汗が出てくる季節と思うと、納得です。

つい最近、春を感じたと思ったら・・・。

一か月前の話になりますが、横須賀線に乗っていたときのことです。北鎌倉の駅でドアが開くと、人と一緒に「黄色い蝶」が電車に乗ってきました。

車内で「あらっ。」と声があがり、座っている人の頭の上を、飛び回っていました。

心休まるひとときでした。

残念ながら私は、次の鎌倉駅で下車。あのあと蝶は、何処まで、電車の旅を楽しんだのでしょうか?

しばらくは、アジサイでも眺めて梅雨を乗り切り、本格的な夏を待ちましょう。

次の岡さんの表紙絵を心待ちにして・・・。

今回の発行は八月十五日です。

宇田川 幸子

※本誌(活字版・テープ版・ディスク版)の無断転載はかたく

お断りします。

表紙絵 岡 稲子

連載 漢点字変換ソフトEIBRKについて (10)

木下 和久

前号に引き続きWindows版のEIBRK(プログラム名はEibrkw.exe)について説明します。

(6)点字画面 (つづき)

g) ページ行同文挿入

挿入の項で説明したように、ページ行に題名などの文字列を挿入することができますが、通常これらの文字列は、数ページにわたって同じものが続く場合が多いので、便宜のためにこの「ページ行同文挿入」という操作ができるようになっていました。これは、直前に表示したページ行と同じ文字列を自動的に入力するもので、Ctrl+Wキーでも同じ結果が得られます。

h) 全ページ行削除

上述の方法で入力されたページ行のデータを、1度に全部削除するものです。大幅な修正を要する場合など、1度全部削除して、最初からやり直した方がよいという場合もあるかもしれません。そのような場合に利用します。

(7)オプション設定

メニューの「オプション」で設定できる項目は、以下の12項目です。インストールした直後は、最低限必要な項目についてはデフォルトの値が設定してありますが、最初にこれらを確認して、適正な条件設定をすることをおすすめします。

a) 入出力パス

メニューの「ファイル」で最初に表示されるパス(フォルダー)名を指定します。デフォルトではc:\¥t e n j ¥d o cとなっています。

b) バックアップパス

前項の e) で説明したバックアップパスを指定するものです。デフォルトでは a : ¥ (フロッピードライブ) となっています。

c) プリンタ機種

プリンタ機種の候補は、入力ウィンドウの右端にある下向き矢印を押すとリストとして表示されますので、希望のものを選択します。「4. ベーシック D (空行点)」は、現在のところベーシック D 型のプリンターでは、何もない行 (空行) での行送りがうまくいかないのので、この行末に 3 の点に 1 つだけ点字を打つようにしているものです。

d) デフォルト・プリンタ

プリンタの機種指定は、変換したファイル毎に指定することになっていますが、新しいファイルを変換するとき、特に指定しないと自動的に指定されるプリンタの機種です。最初は 3 (エベレスト) にしてあります。

e) 1 ページ行数

1 ページに印字される行数は、プリンタに固有のものに見なし、c) で機種を選ぶとこれは自動的に決まり、単独では変更できません。また、1 行文字数は常に 3 2 マスで一定です。

f) ページ付け

これを「なし(2)」にすると、1 行目から本文が印刷され、ページ番号は印刷されません。ページ番号は不要だが、本文は 2 行目から印刷したい場合は、ページ付けは「あり(1)」にして、下記に示すような方法でページ番号が 0 以下になるようにします。

g) 巻 No.

ここで 1 以上の数字を指定すると、それが印刷時ページ番号の前に巻

番号として自動的に付加されます。そのような数字が不要の時は、0を指定します。

h) 開始主ページNo.

印刷ページの1行目の右端に打たれるページNo.は、通常1から始まりますが、この数字をここで指定するとファイルの最初のページがここで指定された数になります。これが0以下の時はページNo.がふられないので、0の時は最初の1ページ分だけページNo.がふられず、-1の時は2ページ分だけページNo.がふられなくなります。

i) 開始副ページNo.

前項で指定された数字が0以下の時、主ページNo.がふられていない部分に下がり数字でページNo.をふることができます。ここで指定する副ページNo.がそれで、この場合も0以下の数字を指定することによって最初の何ページかをページNo.なしにすることができます。

例えば、開始主ページNo.が-10で、開始副ページNo.が0の時は、ファイルの2ページ目から下がり数字のページNo.が付き、これが1～10まで続いて、その後主ページNo.が1から始まります。これは最初にページNo.なしの扉があって、その後目次が10ページ分続き、それから本文が始まるような場合を想定しています。

これらのページNo.は、画面表示ではページの切れ目に表示される数字の後にかっこ内の数字（副ページNo.は赤色）で表示され、点字ではページの最初の行の右端に表示されます。

j) 外字コード

テキスト文の中で直接点字を入力したい場合は、外字登録した点字を入力しますが、ファイルの内部コードがMS-DOSの一太郎バージョン4とWindowsでは異なっています。そのために、一太郎バージョン4で入力して正常に表示できたテキストファイル中の点字は、Wi

n d o w s の画面では表示できません。逆に W i n d o w s で正常に表示された外字による点字は、一太郎のバージョン4では表示できません。E I B R K W で変換するときは、これらの外字コードを自動的に判断して適切な変換をし、変換画面のテキスト行では、いずれの外字コードであってもすべて16進コードで表示します（16進コードでの漢点字〔8点点字〕の表し方については、「コードミホン. t x t」ファイルをご覧ください）。

この「オプション」で選べる外字コードの種類は、

1. 一太郎バージョン4、 2. W i n d o w s、 3. 16進の3種類です。上に述べたように、このコードが1と2のいずれのタイプであっても、E I B R K W は正しく点字に変換しますが、その場合は半角の@や¥、*などと他の文字との組み合わせで表す特殊な記号（詳細については入力マニュアルである R E A D M E _ N . T X T をご覧ください）以外は、すべての半角文字を全角に変換して漢点字変換を行います。したがって、点字を表すための半角16進数が使われている場合には、必ずこの外字コードを3にしておいて下さい。一旦漢点字変換されたファイルは、テキストセーブするときここで設定された外字コードの種類で点字を保存します。

この外字コードが3に指定されていると、半角の16進数の範囲内の英数字はすべて点字コードと見なされて変換されます。それ以外の半角文字は全角に変換されてから点字に変換されます。

k) プリンタ・ポートNo.

R S ポートが2つあり、第2ポートに点字プリンタを接続した場合、これを「COM2」とします。通常は「COM1」となっています。

1) プリンタ・ボーレート

点字プリンタへ送るRS232Cポートのボーレートです。通常9600が使われますが、機種によっては1200が使われる場合もあり、そのような場合は必要な値に変更します。 (以下次号)